「組織とはいったい?」

織とは一体何なんだろうと、たまに想い に耽ることがある。ちなみにこの団体 は、グループホームという新しい概念の

もとに創られた新しいケアの仕組みであるがゆえ



に、どうやって自分たちの質を高めてゆこうかと いう理念のもとに創られた団体である。

それが時代の変遷と共に、その役割も変化して ゆく。それは当然であり自然の摂理でもあり必然 である。だが、本来の設立の理念である、その本 質は変えてはいけない。グループホームをより 良い制度にしてゆくための提言や提案ではな く、いつの間にか、介護報酬の上げ下げだけを 主張する場となったり、挙げ句の果てには仲間 同士、足の引っ張り合いをする場となったりと



『わや』な歴史も経験してき た。ある人は政治力が必要であ ると主張し、ある人には『何を やってるんだ!』と怒鳴られる 始末。

しかしながら、同じ会員とし て会費を出し合い、同じ仲間で ある。

「組織は会員の為にある」と誰かが言った。 確かにその通りである。

しかし、同時に「組織は会員が自ら創るも の」でもある。それを忘れた瞬間、組織の本質 は地に堕ちるであろう。

> 一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会 会長 宮崎直人

グループホームのしごとの啓蒙活動を!



グループホームの仕事ってどのようなもの。 グループホームってそもそもどんなところ。 聞いたことはあるがよく知らない方が地域に はたくさんいらっしゃるのではないでしょう か。当協会では北海道の介護のしごと魅力 アップ推進事業の助成を受けて啓発用のDV Dを作成いたしました。グループホームでの 利用者さんの暮らしとそこで働く職員の姿を 紹介しております。それぞれの地域の中学 生、高校生の方に知ってもらい就活の参考に してもらいたい。職安や住民の方に紹介して もよい。会員にお配りしたDVDをグループ ホームの啓蒙活動に使っていただきたい。

お問い合わせは事務局まで。

どうも最近、介護殺人、介護報酬不正受給や虐待などのぶっそうなニュースが聞かれる。

グループホームではないが「介護に嫌気が差した」と殺人犯はいう。事件を引き起こす本人は言語道断であるがそれだ けではないはずだ。ただ介護が回っていればよいという経営風土になってはいないか。問題があっても手を出さず放っ てはいないだろうか。不平不満が飛び交うだけの職場になってはいないだろうか。しかし、どんなに人手不足でも、給 与が低くても、人材育成に努め、日々支援の質の向上に努め、人への必要な支援がちゃんと届けられているのが大半の グループホームであろう。「グループホームしごと」のDVDの中の生活のようす、職員のようすにあるように普通の暮 らしができている、やらせではない婆さん爺さんの普段の穏やかさや職員の笑顔が素敵でした。行動には必ず結果がつ いて回る。改善への日々の努力はもちろんだが出される結果には少しでもちゃんと向き合い行動ができる自分になりた いと思う。

今回は早川浩士先生、藤川幸之助先生のコラムはお休みとさせていただきます。 ご投稿をいただきました関係者の皆様ありがとうございました。

大空。希望



一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 広報誌「大空と希望」 2016年3月発行

札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312 URL http://h-gh.net

「グループホームのみちしるべ」

ウェーデンでのバルツァーゴーデン・ プロジェクトが、バルブロ・ベック・ フリス医師らによって1985年2月から始まった。 一軒家で6~8人の認知症高齢者に、24時間体制 で世話や介護をする取り組みである。ロービイ ヘムメットに次ぐ、バルツァーゴーデンは、ス ウェーデンでは2番目のグループホームであり、 最初の入居者として認知症と診断された女性4人 と男性2人が選ばれた。

ロービイへムメットは、どこにでもある普通 のアパートの5戸の部屋で成り立っているのに対 して、バルツァーゴーデンの建物環境は、一戸 建てで認知症高齢者用個室7室、共同の居間、食 堂、台所が果実のなる木々が植えられている広 い庭園のなかに建てられている。ソファーなど の家具やカーペット、照明、陶器、絵画など は、認知症高齢者たちが最も活動的に日々を 送っていた1930年代、1940年代、1950年代のも のでしつらえられている。

これらは認知症高齢者が、昔のできごとや、



い出す手 助けとな り、家庭 的な快い 環境をつ くるとと もに、施 設的な堅 苦しい雰

経験を思

し去り、暖かさを醸し出す効果がある。

私が初めてスウェーデンにおけるバルツァー ゴーデンの取り組みについて知ることになった のは、1991年11月に東京で開催された第2回高齢 者ケア国際シンポジウム-痴呆性老人の介護と人 間の尊重-『International Symposium on Elderly Care ~Elderly Care with Dignity~』に参加したからで ある。第3部の各国における痴呆性老人のケアの

現状について、当時スウェーデン・モタラ総合病 院老人部長であったBarbro Beck-Friis,M.D.の発表 に強い衝撃と感動を受けたことを、25年経った今

明に覚 えてい る。な ぜなら 『バル ツァー ゴーデ ン:ス ウェー デンの



のためのグループリビングモデル』と題した、前 述のようなバルツァーゴーデンにおける痴呆疾患 のケアについての発表は、私が養護老人ホームや 特別養護老人ホームなどの大型施設に約10年勤務 して、やっと私なりに思い描いて建てた痴呆性老 人専用回廊型特別養護老人ホーム幸豊ハイツ定員 100名を開設した年が、スウェーデンのバツァー ゴーデン・プロジェクトのスタートと同じ1985年 だったからである。

バルツァーゴーデンの取り組みは、1988年には 『AT HOME AT BALTZARGARDEN』として、日 本では1993年3月に『スウェーデンのグループ ホーム物語 ~ぼけても普通に生きられる~』が 出版され、認知症ケアに携わる多くの人の「みち しるべ」になっていると考えている。それだけに 北海道におけるグループホームもこのバルツァー ゴーデンの取り組みにおける哲学・理念が私たち のバイブルといえるであろう。

> 一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会 常任顧問 社会福祉法人幸清会 理事長 大久保幸積

「地域支援事業とグループホームの役割」

重

度な要介護状態となっても、認知症の進行がみられても、住み慣れた地域で自分 らしい暮らしを人生の最後まで続けるこ

とができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるのが「地域包括ケアシステム」であるが、静内ケアセンターは認知症グループホームをそのエリアの基軸として平成17年より「福祉村構想」を展開してきましたので報告いたします。

平成12年から介護保険制度がスタートしましたが、介護事業に民間参入は増えたものの、認知症についての理解や地域住民の参加(高齢者の社会参加を含む)はなかなか進行しなく「何をどうすればいいか解らない」状況でした。

そこで、グループホームの持っている施設機能や 職員の専門性を地域に活かしながら理解者を増や す事業展開をしています。

最後は、終の棲家として「認知症グループホーム」での暮らしを選択できるとしても、経済的理由や家族の理解がなければ選択できませんので、グループホームに入らなくても在宅生活が可能な支援をしています。

平成12年4月 日高管内での第1号の民家改築型 定員5名「痴呆性老人グループホーム」のスター トでした。あわせて在宅生活の人を支えると共



平成17年から は、新ひだか 町ときわ町で

の「福祉村構想」がスタートしましたので、グループホームの施設機能を活かす意味からの「ショートステイ」「デイサービス」地域交流と地域支援から、平成18年「認知症デイサービスあすなろ」定員12名の開設。食堂の許可を得ての「配食」をする。デイサービスに使っていない時は「地域交流センター」として地域にも開放したり、研修会・葬儀等にも使われる。グループホームの機能を地域の人に理解してもらうために、平成18年9月「支援ハウス」を建設し、そこで暮らす認知症の人達の食事、薬管理、安否確認等をサポートする。

支援してくれる人が居れば、認知症になっても 在宅で暮せるモデル事業である。同年9月には、 支援ハウスや在宅生活者の重度化に備え「一般乗 用旅客自動車許可取得」(患者輸送)。平成25年 7月には多目的ホール「ゼラ」を建設し、地域交 流の拠点とし、ときわ町福祉村が完成した。



として、認知症デイサービス「なかの」、各種支援ハウス、訪問介護事業所を展開し、平成24年9月からは第三の福祉村として、支援ハウス孝ちゃんの家、併設型デイサービス、独居型支援ハウスを建築し現在に至っています。

「地域支援事業」を考えた時、わが町の現状は、ニーズにあった多様なサービスが展開される環境にありません。住民主体の組織も新しいNPO法人もボランティアグループも出来ておりませんし。60代から75歳までの高齢者の社会参加気運もないのです。これはほぼ全道的な課題であると認識しております。

そこで重層的な生活支援サービスの提供体制の 構築されるまで、地域密着型サービスに位置づけ されております我々事業者のやるべき役割が大き いとの認識でおります。つまり、介護保険制度を 上手に使うと共に、生活を支えるために不足する サービスは、自主事業やボランティア、地域を巻 き込んだ活動の展開におけるリーダーシップが求 められているのです。

その視点に立てば、グループホームは「地域の相談センター」であり、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と情報を共有し、地域ニーズに応えていくことが可能なのです。認知症の人を介護している人にとっての休息や代理としての「併設型デイサービス」や「ショートステイ」は喜ばれる事業でありますし、これに「一時預かり」や「交流事業」「認知症カフェ」を組み込めば地域評価は上がるでしょう。

グループホームや支援ハウスで暮らす人達も地域住民であり、同じ住民同士として買い物や通院や行事(温泉等)の送迎ボランティアをする事もあります。住民同士の助け合いが第一ですが、我々グループホームを営む者も地域の一員として行えることも多くあるのです。

地域支援事業こそ我々の出番です!

(有) 静内ケアセンター 「栗ちゃんの家」 代表 下川孝志

各ブロック研修 日程と開催都市

事業委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
札幌	平成28年8月26日	札幌市	癒されませんか?Part4	吉川よしひろ氏
道央	平成28年5月10日	恵庭市	新人・中堅スタッフスキルアッ プ研修(人権擁護編)	宮崎直人氏
	平成28年9月14日	恵庭市	チームケアの向上の為の伝達方 法	釜谷薫氏
空知	平成28年12月	岩見沢市	地域福祉の調査研究に関する研 修会	調整中
道南	平成28年12月6日	函館市	計画作成担当者研修	釜谷薫氏
日胆	平成28年11月11日12日	苫小牧市	実践者研修修了者フォローアッ プ研修	宮崎直人氏 釜谷薫氏 吉田恵氏
十勝	平成28年9月16日	帯広市	「もう一度グループホームの役 割を考えよう」研修	宮崎直人氏
道東	平成28年10月28日	釧路市	認知症基礎研修	佐々木幸子氏
道北	平成28年5月11日	旭川市	高齢者虐待はなぜ起こるのか	石川秀也氏
後志	平成28年9月16日	小樽市	「ケアプランに基づく記録の方 法」研修	小林大祐氏
オホーツク	平成28年6月23日	北見市	認知症介護研修	村越洋子氏

研修委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
空知	平成28年6月	滝川市	認知症の症例別に対応した支援 研修	調整中
	平成28年12月	滝川市	介護記録の書き方研修	調整中

2

実践者、管理者、実践リーダー研修日程と開催都市

認知症介護実践研修 (実践者研修)

第1回(札幌市)

平成28年5月17日~6月14日

第2回(旭川市)

平成28年6月21日~7月19日

第3回(苫小牧市)

平成28年9月6日~10月4日

認知症対応型サービス事業 管理者研修

第1回(札幌市)

平成28年6月14日15日

第2回(旭川市)

平成28年7月19日20日

第3回(苫小牧市)

平成28年10月4日5日

認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

第1回(旭川市) 平成28年9月26日~11月21日 第2回(札幌市) 平成28年10月24日~12月19日



日程等変更になる場合がございます。 詳しくはHPをご覧ください。

その他の研修日程と開催都市

自主研修シリーズ I (札幌市)
「本気でグループホームを知り本気でグループホームもやろう!」
宮崎直人氏 武田純子氏
平成28年7月5日(火)6日(水)

自主研修シリーズIII(札幌市) 「グループホームで看取る」 長尾和宏氏 釜谷薫氏 西塔昭代氏 平成29年1月28日(土)29日(日)

自主研修シリーズ II(札幌市) 「アセスメントとケアプラン」 釜谷薫氏 平成28年11月24日(木)25日(金) 認知症介護基礎研修(札幌市) 第1回平成28年12月1日(木) 宮崎直人氏 第2回29年2月21日(火) 釜谷薫氏

実践研修等新カリキュラム、介護福祉士、ケアマネの資格 制度の変更について

『実践研修等新カリキュラム、介護福祉士、ケア マネの資格制度の変更について』

認知症介護研修の見直し等について

施行日: (平成28年4月1日から1年の猶予期間を設定)

北海道・札幌市は新カリキュラムの研修実施移 行を平成29年4月1日を予定している。

【認知症介護実践者研修】

現行研修目的は、認知症の理念、知識及び技術を修得させることを目的にしているが、見直し案は、施設、在宅に関わらず認知症の原因となる疾患や容態に応じ、本人やその家族の生活の質の向上を図る対応や技術を修得させることを目的としている。ことが新カリキュラムの特徴です。

- ・介護技術や実践に結びつく内容の充実
- 新設「認知症ケアの倫理」と「認知症の人への非薬物的介入」の科目
- ・現行「医学的理解」と「心理的理解」から見 直し「認知症の人の理解と対応」として一体 的に学習するため科目の統合
- ・現行「援助関係を築く演習」と「生活環境を考える演習」を見直し「認知症の人への介護技術Ⅰ」と「認知症の人への介護技術Ⅱ」として認知症介護の実践力を高めるため、演習科目を整理し、演習時間を充実

【認知症介護実践リーダー研修】

現行研修目的は、認知症介護実践研修で得られた知識・技術をさらに深め施設、事業所において、ケアチームを効果的・効率的に機能させる能力を有した指導者を養成することを目的にしているが、見直し案では、ケアチームにおける指導的立場としてチーム員の知識・技術・態度を指導する能力及びチームリーダーとしてのチームマネジメント能力を修得させることとが新カリキュラムの特徴です。OJT技術の向上や具体的なケア技術の指導方法に関する教科内容を充実

- ・新設「認知症ケア指導方法」認知症介護の技術 指導法を学ぶ内容を充実
- ・現行「介護現場の介護理念の構築」と「介護現場の認知症介護のあり方に関するアセスメント」を見直し「チームにおけるケア理念の構築方法」チーム内での方針や方向性を協同で構築し、共有化を図るための内容に変更
- ・現行「人材育成のための技法」を見直し「職場 内教育(OJT)法の理解と実際1(運用法) と「職場内教育(OJT)法の理解と実際2 (技法)OJTでの指導に活用できる技術を中 心に学習する内容に変更

・現行「チームケアのための事例演習」を見直し「認知症におけるチームアプローチの基本と実践」必修科目ではなく実施率の低い研修であったため研修内容を見直し。

介護福祉士を目指す受験資格の変更点について 【実務経験ルートの変更】

これまでは、実務経験3年以上で受験資格を得ることができましたが、今後は受験資格を得るために「実務者研修の終了」が必修となりました。 実務者研修の研修時間は、無資格で450時間ですが、受験者のこれまでのお持ちの資格(ヘルパー一級、二級)などで、実務者研修の必要受講時間が違います。インターネット、介護学校等で調べてください。

実務経験3年目で国家試験受験が認められる。 これまで「一月の筆記試験当日までに実務経験3 年以上があること」が定められ、4月の新人職員 は、2年10か月しかなく次の年に受験するしか なかったが、今回、年度末に受験資格の3年を満 たす見込みがある場合については、受験資格を有 していると認められることになりました。これま でより一年早く受験できるようになりました。

【養成施設ルート】

2022年からこれまで不要だつた国家試験の受験が義務化されるようになります。2017年~2021年度は移行期間となり、この間の卒業生については、国家試験の受験は任意です。卒業後の5年間は介護福祉士になれます。詳しくは、卒業校へお尋ねください。

ケアマネ受験資格の変更について

ケアマネの受験資格は、猶予期間として3年間は、ヘルパー2級等訪問介護員は、受験資格がありますが3年後は、介護福祉士など法定資格保有者・生活相談員・支援相談員・相談支援専門員・主任相談支援員等通算して5年以上の従事期間が必要です。介護等業務は受験資格の経験5年以上から除外されます。

平成27年度試験より、皆さんご存知のとおり解答免除は廃止となりました。60問全問解答をしなければなりません。

以上

空知ブロック会長

北海道・札幌市認知症介護研修カリキュラム検討会構成メンバー

特定非営利活動法人社会福祉振興会理事長 加藤 和也

「努力を惜しまず」: 道東ブロック

道東ブロックは釧路市と近郊の町村と根室市近郊の町と幅広い地域です。皆さんが知っている道東の 釧路は霧の町と言うイメージでしょうが最近は気候 の変化で霧も余り出なく暖かい環境です。

釧路管内は釧路・標茶・鶴居・弟子屈の町を囲んだ中に釧路湿原があります。釧路・厚岸・根室・羅



臼新鮮な海の幸と観光でいっぱいです。そんな環境の中に道東ブロックはありますが、どこでも同じ悩みが有り人材不足は 本当に解決の出来ない問題です。募集を出しても電話の一本も入らない事

はいつもの事ですが、それでも入居者様がいらっ しゃる限りどんな状況でも運営をしなければならな い事業所が多く見られます。

介護報酬が下がり人材確保が出来ないこんな事がいつまで続くのかと思うと頭が痛くなります。そんな中でも皆さんは頑張ってより良いケアをして行こうと絶えず職員研修に励んでおります。キャリアパス事業が有る限り役員総出で検討をし、より良いケアの為努力を惜しまず継続して行きたいと思っております。グループホームに求められている事を再度

振り返りながら検討する時期に来ていると思いま



す。事業所の皆さんも 勿論ですがGH協会で 何が出来るかを試され ているのではないかと 感じます。釧路はSOS ネットワークの発祥の 地であり協会でも釧路 でSOSネットワークの

大会を開催した事が有りましたが、今回釧路市ではキャラバンメイトの講習が有り30名だった修 了者が50人増え80名になりこれからの活動が 期待されています。

釧路市ではサポーターの人数が少なくないので 認知症を理解していただく認知症サポーターの方 も増える事を協会でも働きかけて行こうと思って おります。道東は海岸沿いに大きな町が有り地震 津波に対する自治体の避難訓練も多く事業所・町 内の連携を行っております。私の事業所は平地で 海まで400Mですので町内会の皆さんと話し合いを し災害時の対策を協議しております。地域の町内 会の皆さんのご理解とご協力に感謝です。

「豊かになった心をお土産に」:札幌ブロック

皆様、こんにちは。 札幌ブロック事務局では展開してきた活動を通して、沢山の皆様と出会えた事が、今後に向けての励みとなっています。平成27年度も、「認知症介護実践者研修(5月開催、受講者78名)」「実践リーダー研修(11月開催、受講者51名)」「認知症対応型サービス事業管理者研修(6月開催、受講者40名)」また、お二人の講師をお迎えして開催した自主研修、

「癒されませんかpart3 (8月開催、受講者36名)」では、平野 雅宣氏より"ご家族からのメッセージ"として、家族の想いや家族介護の在り方についてのお話を、



安部白道氏より "疲れた時や行き詰った時に聴く話"をテーマにして、Qシートを使ったグループワークを通して、様々な視点の捉え方を学びました。参加者から頂いたアンケートでは、介護の実体験を身近に実感で

きたことや、考え方の拡大などを体験して、いずれも新鮮な気持ちに戻ることができたとのご意見を多くいただいております。参加された皆様が、豊かになった心をお土産にして帰途に着いていただけることは、本当に嬉し

いですね。研修に関しては、いよいよ2月末の、キャ

リアパス支援事業を活用した第2回目の自主研修「介護技術及び知識向上講座」開催を残すところとなりました。

また、新しい取り組 みとして年2回の計画 で、ブロック通信第1号



を発行。リレー訪問など会員の皆様が繋がり・絆が深まる事を願い、今年度末には、通信第2号の発行を予定しております。皆様の事業所へ、インタビューにお伺いをした折には、ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。 最後になりますが、今年もブロック総会の時期が参りましたらお知らせを致しますので、ご出席を頂けますよう重ねてお願いいたします。総会終了後の親睦会は、情報交換は勿論のこと、和気藹々で楽しいと大好評!事務局一同、より多くの皆様と素敵な時間をご共有できることを楽しみにしております。

グループホーム トトロの森 住友 幸子

『地域の交流のできる場所』 : 道央ブロック

涀

在、全国での認知症高齢者数は2005年からの10年間で約170万人から、250万人へ増



我々介護従事者の役割でもあります。

グループホームというのは、介護保険制度において、地域密着型の運営を使命としており、地域に根付いた存在でなくてはなりません。そこで、地域交流の基盤作りとしてこもれびの家では昨年より、町内の方が主導となりホームの元託児所スペースを削別した、ふれあいサロン「フレンド」を開設した。地域交流には様々な可能性があります。地域可能性があります。地域可能性があります。地域の方だけではなく、ホームの入居者様も地域の一世域として「フレンド」に参加する事で、日常的に地域をとして「フレンド」に参加する事ができ、認知症の理解を深めるひとつのきっかけとなる事が期待されるとと関わる機会を設ける事ができ、認知症の理解を深めるひとつのきっかけとなる事が期待されるとっております。また昨今、様々な理由により身寄りのないお年寄りの方や有事の際の孤独死が多発して

いる中、このような通り組みを通して相互の協力関係を築いていくことが出来れば、お年寄りが社



会から孤立しないないと 組を作っいと思ってい おります。それに省か もせ、厚生労働るより ら出されてででは かとこれででの のではないが に当ないででが がいます。 ではないででが のではないででの のではないではの のではの がいれている。 がいれている。 にいれている。 のではない。 のでは、 のでは、

す

今後は、こもれびの入居者様で年齢の若い方もいらっしゃる中「フレンド」を利用しながら、より親密な関係を築いていき、地域の方の協力も得ながら、入居者様が主体となり「認知症カフェ」の運営まで携われる仕組みを作る事で、社会の一員として貢献し「認知症の人」ではなく「その人」としての生活を事業所単位だけの支援から地域全体で支えていける支援体制としていく事と、それを継続していく事が、たとえ認知症になったとしても安心して暮らせる町づくりの実現に繋がっていくのではないかと思っております。

グループホーム こもれびの家 橋本 勇樹

「ブロック活動にふれて」: +勝ブロック

当事業所グループホーム鶴栖は、本年2月迎えて9年目となりその間、スタッフの人員不足や育成不足等、色んな試練がありました。なかなか改善されないまま流されている現状の中グループホーム協会での研修、交流を持つことにより、救われた場面が多々あります。

昨年27年11月「実践実例発表北海道大会in登別」に参加させていただき実際に起きた事例を基に実践、研究した成果を発表し他の事例を知り検討していく中で、業務改善や事案を取り入れる事で利用者様への支援向上に繋げる取り組みを図る。また、発表会に参加することにより各事業所との交流や見聞を広める事で職員のスキル向上を目指す目的でもありました。

他、事業所支援事例も多々あり、参加したスタッフにとってはとても良い経験になったとの声もあり、今年度も参加する方向で取り組み、質の向上を目指しています。今回の事例発表十勝ブロックからは3事業所(気持ちが死んでいる・介

護施設で看取るという事・茶話会事例 2) の発表 でそれぞれ成果を出しています。尚、災害時にお ける防災対策を常に考案しており地域との連携を より一層高め、安心安全をモットーに取り組んで います。25年度十勝ブロックで行われた「認知症 実践者・管理者研修」今年度は、初めて「認知症 者・リーダー研修」を十勝ブロックで開催出来た 事、釧路や北見からの参加もあり、十勝全体ので もり、18事業所が手と手を取り合い、無事終了す る事が出来た事は感謝です。

十勝での開催の機会が増え、より多くの方が参加でき、研修を通して、スタッフの質を高めて利用者様・ご家族そして地域との交流を深めると共に、あらゆる分野でグループホームでの活動、役割等を理解していただけるよう十勝ブロックでの活動や、事業活動に力を入れて多くの会員と情報の共有が出来たら嬉しい限りです。